

復活の喜び(ローマ 8:11)

皆さんの祈りに支えられて、ヨーロッパの短期宣教を行ってまいりました。ヨーロッパは、神様が未伝道種族の宣教のために多民族をたくさん集め集めていらっしゃるところでした。しかし、その使命を全うすべきキリスト教会から福音が消えてなくなり、礼拝堂はイスラム教に売られてモスクに変わっているところが少なくありませんでした。そのような現状の中で、そこにまだ小さい希望ではありますが、タラッパンの教会があるということ、その存在の意義、またタラッパンの教会がそこに存在する価値について改めて考える機会になりました。と同時に、日本の国を振り返ったときに、日本の国はだれが見ても、どこの国から見ても偶像国家です。それを自慢にしている、そのような国です。そして、世界で海外から宣教師がいちばん多く入ってきていたりする国なのに、宣教師の墓と言われる、そのような汚名を被っている国もあります。そのような日本の国を神様がご覧になったときに、このままの状態ではなくて、日本の教会が 5000 種族を宣教する教会として変えられることが神様の願いに間違ひありません。しかし、そのような神様の願いを全うすべき日本の教会に、福音はもはや薄れて消えてなくなっていることが正直な現状です。その日本の教会が福音を回復して、復活のキリストがいまも休むことなくなしていらっしゃる聖書的伝道運動を回復することが神様の願いではないでしょうか。そのことによって 47 都道府県、一千大学に絶対やぐらを建てる教会となり、宣教師の墓という汚名を返上して、未伝道種族を宣教する教会として生まれ変わらようになるのではないでしょうか。そういう神の願いをもって日本の現状を見たときに、本当にまだまだ小さい群れではありますが、日本にあるタラッパン教会の存在価値、意義などを改めるようになりました。その中でもレムナント教会は、日本の教会が力を得て福音を回復し、聖書的伝道運動を行う教会に変わるように手伝う証人の教会にならないといけません。まず、私たちひとりひとりが、レムナント教会が、復活のキリストが聖靈を通して初代教会に行われていた聖書的伝道運動の答えを味わう証人の教会になること、その証拠をもって日本の教会に聖書的伝道運動の流れを伝える役割を全うしないといけないのではないでしょうか。本当にそれが可能なのかと思うかもしれません。信仰は目に見えない事柄の保証であり、私たちに必要なのは、それが神様の御心であり、神のみことばの約束に間違ひなければ、教会のミッションとしてひとりひとりのミッションとして握る信仰を持つことがすべてなのです。それがレムナント教会のミッションであり、そのミッションを中心にして、いま皆さんにあるさまざま問題を見ることによって正しい解釈ができるようになります。過去を振り返って、嫌なさまざまなものがあつたかもしれません。今現在も嫌だと思うような問題を抱えているかもしれません。それがすべて、日本の教会が 5000 種族を宣教する教会に生まれ変わることを手伝うために神様が許された問題です。証拠を与えるために、私たちがまず聖書的な伝道運動の主人公となるために、マルコのタラッパンにありましたその体験ができるようにということで、神様は嫌だと思う性格、習慣、悩み事、問題などを許していらっしゃいます。だから、感謝しながら正しく解釈して向き合っていただきたいと願います。そのようなミッションをもって教会を改めるこのようなタイミングで、私たちは復活感謝礼拝を捧げることになりました。そのため、この復活礼拝が最高の祝福の礼拝になることを、主の御名によって祈りたいと思います。私たちにとって、年 1 回の復活感謝礼拝の行事ではなくて、イエス様の復活、いまも生きていらっしゃって、御座にいらっしゃる、そして私たちの内側に生きていらっしゃるキリストを心からほめたたえて、イエス様の復活の意味を正しく理解し、復活を自分の復活として喜ぶときになることを祈りたいと思います。そうすることによって、いま弱くて小さな私たちが、日本の教会を手伝う証人の教会に変わらようになるということをぜひ覚えていただきたいと思います。信者になったにもかかわらず弱さがあり、さまざまな問題などがあります。だからこそ、信者の私たちは世の人にはない、世の人は夢にも見ることができない復活の勝利の喜びを自分のも

のにして、それを味わうときに、復活の力が私たちに、私たちの問題に、皆さんのお業に、皆さんの現場に具体的に現れて、暗闇の勢力が碎かれ、そこに聖霊が臨まれる神の国が現れるようになります。いくら不可能な状況であっても、それは私たちの構うところではありません。聖霊が臨まれると、その約束のある復活を信じる神の民なので、ぜひ信仰を回復する幸いなときになることを祈りましょう。イエス・キリストの復活。それは何を語っていて、何を証明することで、何を宣言しているものなのか。その内容を正しく理解して、だからこそ、私たちはイエス様の復活を覚えるたびに、それを喜ぶようにならないといけません。

1. 十字架の完璧な救いの宣言

まず第一に、イエス様の復活は十字架抜きでは考えられません。十字架あってこそ復活なのです。なので、イエス様の復活は、イエス様の十字架での救いが完璧な救いだったということを宣言する大きなメッセージなのです。それを信者の私たちは喜ぶわけです。

イエス様の復活を覚えるたびに、なるほど、その前に十字架の上で成し遂げられた、私たちのための約束されたその救いが、完璧に成し遂げられて、完璧なものだったんだねという証明なので、それを確認して喜ぶことが、復活を本当に信じる信者の特権です。イエス様の復活のことを心から告白して、その復活が自分の復活だと告白し、さんは完璧な救いの主人公であることを喜んでください。十字架を考えるときに、まず第一に、その十字架を見ながら、一体人間とはどういう存在なのかを考えなければいけません。どれほど人間が絶望的な存在で腐っていれば、罪のない神の御子キリストが十字架で悲惨な死を遂げなければいけなかつたのか、それを考えなければいけません。そして、それが自分のこととして考えるようにならないといけません。「十字架はすごいな。でも、私と直接関係ない」ものであれば、何の力も現れません。さんが刑務所にいる人間よりそんなにひどい罪を犯したり、悪ふざけなどしたことがないから十字架は…それは勘違いなのです。すべての人が罪を犯したので、神からの榮誉を受けることができません。十字架は私のために、すべての人のために、イエス様が身代わりとして、贖いの死を遂げたところなのです。

1) 人間の真相

なので、復活の喜びの前に、十字架を見ながら、自分はどんな存在なのか、なぜイエス様の十字架が絶対必要なのか。人間はなぜ十字架でなければいけないのか。人間とはどんな存在なのか。その人間の真相について考えなければいけません。なぜイエス様が、罪のないキリストが十字架で死ななければいけなかつたのでしょうか。

①根本問題

それはだれもわかっていない、悪魔と神様だけがご存知の、人間にある根深い根本の問題があるからなのです。エペソ 2:1 には、あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であってと言われています。さんは息をしているから生きていると思うでしょう。人間は靈があり、肉体のある靈的な存在で、神のかたちに造られたものなのです。しかし、悪魔に惑わされて、神様との約束を破り、神様に罪を犯して神に背いてしまいました。神様が人間から離れることになりました。その瞬間、人間の靈は死んでしまいます。生きているかのように思われるでしょうけれども、神様との関係は 100% 完全に断絶されています。靈が死んでしまったというのは、神がともにおられた人間なのに、神様が人間を離れることになり、即座に目に見えない悪魔サタンが人間に入り込んで、人間のたましいを捕えて人間を支配することになりました。だから聖書には、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であると言われています。それが特別な犯罪者の話、悪靈に取り憑かれて変なことをしている人間の話ではなくて、すべての人は罪を犯したので、すべての人は悪魔の子であり、たましいが、靈が死んでいる状態です。なので、いくらもがいても人間は地獄に行

くしかないし、人生そのものはのろわれるしかない、もうのろわれてしまった運命に囚われて生きるしかない存在です。だれがこのことに気づくのでしょうか。だれがこれを教えることができるのでしょうか。どこに行けば教えてもらえるのでしょうか。宇宙のどこに行っても教えてもらえない。なので、皆さんがどこかで聞いて学習した内容で人間の真相を探ろうとすることは最初から間違いなのです。すべてが偽りなのです。すべてがでたらめになるのです。聖書だけが、神様だけが、この真相を私たちに解き明かしていらっしゃいます。靈が死んでいて絶望的なのです。なので、生まれながら神の御怒りを受けるべき子として生まれます。つまり、生まれながら靈が死んだままの状態で生まれますので、生まれながら精神的な問題を抱えて生まれます。人間は生まれながらいちばん深いところに消えない不安を抱えて生まれます。赤ちゃんに何も精神的な問題がないかのように、真面目に頑張るから、勉強しているから精神的な問題がないかのように思うかもしれません。それで目立つような精神的なトラブルがあるときに精神の問題、と言うかもしれません。けれども、それは勘違いです。靈が死んだままの状態なので、生まれながら精神的に正常な人間はひとりもいません。生まれながら精神的な問題を抱えて生まれます。生まれながら神の怒りはとどまっている状態です。これが人間です。なので、生きている間にさまざまなきっかけを通して、それが表に目に見える形で現れるだけなのです。分裂の状態、執着の状態、それがエスカレートしていきますと、中毒の状態、靈が死んで生まれながら精神的な問題を抱えて生まれるので、それが何かをきっかけにして病として現れる場合や経済的な破綻という問題で現れる場合もあるし、人間関係の破壊や家庭の崩壊等々の問題で現れるだけなのです。しかし、人々は人間の真相が何か分かっていないので、表に現れている問題ばかりを見て、その問題のためにもがきます。どうにかしようともがいても、もがいても、もがいても解決になりません。だから疲れて重荷を負うだけなのです。何が問題なのか、本当の真相がわかっていないので、問題解決のために宗教にのめり込んだり、偶像を拝んだり、占いに頼ったり、またシャーマニズムなどに走ったりするしかありません。しかし、それでは何も問題解決にはなりません。たまに表に現れている症状が収まる場合があります。それが問題の解決だと世の中では大騒ぎになっています。けれども、それは解決ではありません。本当の問題の深い根っこの方が分かっていれば、根本の人間の真相が何か分かっていれば、靈的な問題が何か分かっていれば、それが問題の解決と簡単に言えるものなのでしょうか。十字架は私たちに語っています。人間は罪のないキリストが十字架で死ぬしかない、そのほかには救いの方法のない絶望的な存在だということを語っています。それが特別な話ではなくて、皆さん自分の話でないといけません。

前にも申し上げましたように、刑務所でたぶん人を殺めた罪だと思いますけれども、その人に福音を伝えたら「そんなに簡単に許されることってありでしょうか」と最初は拒否しました。それで何回も繰り返して福音を伝えましたら、その凄い許しと愛に感謝しますと、イエス様を信じますと言ひながらも、「でも私は許されない罪を犯した者なので、これはこの愛を元にして、一生つぐないの思いでこれを持っていきます」と日本人らしく言っていました。だから、自分は人を殺めた、他の人と比べてひどい犯罪者だと思っているのが問題なのです。人を殺めたことが問題ではないというわけではありません。

②隠れた問題③現れた問題

しかし、それに隠れて本当の真相が見えないということは、悪魔の働きなのです。その人は人を殺めた犯罪者、ではなくて靈が死んでしまって悪魔の子なのです。地獄の子なのに、それが見えないです。自分が犯罪者だということに隠れて、それが見えないです。逆に、自分はそんなひどいことなどせずに、真面目にできるだけ迷惑をかけないで生きてきたつもりなので、それがまた膜になって真相が見えないです。教会に通っていながら、それは特別なひどい人間の話であって、私はそんな…と思ってしまうのです。それがすべて悪魔の働きです。なので、復活を喜ぶために、

まず十字架の前で人間の本当の真相を心から素直に認めないといけません。親に捨てられた、だから私は可哀そうだ、捨てられた者だという被害意識を抱えて、だから悪いことをしたり、性格がどんなに変なことになってもそれは仕方がないよ、別に私捨てられた者だから…と合理化しようとするでしょう。可哀想な人間。とんでもありません。親に捨てられた可哀想な人間ではなくて、地獄の子なのですよ。なぜそのことによって真相を避けようとするのでしょうか。親のせい、だれかのせい、そんな余裕、暇などありません。Only キリストの十字架のほかには何も見えないようにならないといけません。だから世の中には道がありません。世の中には人であれ、論理であれ、理論であれ、技術であれ、どういう制度であれ、どのような宗教であれ、そこに希望など、道などありません。いくら芸術が人を慰めるとしても、全部偽りなのです。本当の慰めと本当の励ましは宇宙に存在しません。勘違いしないように。人の愛情によって人が救われると思いますか。福祉制度などによって、カウンセラーによって人が救われると思いますか。クリスチャンの私たちがそういうレベルなので、世の中の暗闇が碎かれないので。人間の真相に目覚めないといけません。それで神様は最初からほかのことは一切言わずに一言だけ、女の子孫が生まれて蛇の頭を踏み碎くとおっしゃいました。アダムの子孫では無理なのです。人間では不可能なので。女の子孫、神から来られるキリスト、メシアのほかには道がありません。宇宙のどこを見渡しても希望の光はありません。そうならないといけません。何のせいにしていらっしゃるのでしょうか。それが悪魔のささやき、悪魔の偽りなのです。それがファクト、事実だとしても偽りなのです。靈的なことを隠して、その真相にたどり着けないように悪魔が企みを働いてるだけのものなのです。だから神様は、最初から女の子孫が生まれて蛇の頭を踏み碎く真の王様であるキリストのほかには希望がありませんとおっしゃいました。十字架の上で犠牲のいけにえになる、それで私たちの罪とのろいの運命をすべて碎いてしまう真の祭司なるキリストのほかには希望がありません。イザヤ 7：14 には、処女が身ごもって子どもを産むよ。その名をインマヌエルと言いまさい。神が人とともにおられる。神様を離れて靈が死んでいる私たちの靈にいのちが与えられて、神様と一緒にになる。いのちの道であるキリスト。真の預言者なるキリストのほかには希望などはありません。どこを頼りに、何に迷っているのでしょうか。宇宙に見るべきところはどこにもありません。

2) 絶対キリスト

①創世記 3:15 ②出エジプト 3:18 ③イザヤ 7:14

絶対キリストなのです。その約束が成就されました。十字架にかけられて 3 日目に復活なさったイエス様こそ、そのキリストなのです。I ヨハネ 3：8、神の子イエスが現れたのは、悪魔のしわざを打ち壊すためですよと。

3) イエスはキリスト

①ヨハネ 3:18 ②マルコ 10:45 ③ヨハネ 14:6

マルコ 10：45。「人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです」。真の祭司として十字架で死なれたイエス様こそ、そのキリストなのです。そのイエス様がおっしゃいます。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません」。真の預言者であるキリストなのです。イエスはそのキリストなのです。

4) 「全てを完了した」

①ヨハネ 19:30 ②ヨハネ 5:24 ③1 コリント 3:16 ④ローマ 8:1-2 ⑤エペソ 1:23

そのイエス様が十字架にかけられました。イエス様がその十字架の上で宣言されます。すべてを完了したと。十字架によって約束された救いが完璧に成し遂げられました。どこでそれがわかるのでしょうか。復活を見たときに、なるほど、おっしゃった通り、すべてを完了したこと間に違いない

と。ヨハネ5：24には、「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わされた方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っています」。絶望的なその死の運命からいのちに移っているのです。それが完璧に成し遂げられました。それが完了されました。ローマ8：1-2、だから、キリスト・イエスにあって、もう二度と罪に定められることなどありません。いのちの靈の原理によって死と罪の原理からあなたがたを解放したから、永遠に解放されました。もう二度と罪に定められることなどありません。この救いを完璧に成し遂げられたのが十字架なのです。それを宣言することが復活なのです。救いはそれにとどまることなく復活なさったキリストが聖靈を通して救われた人の内側にいのちとして入ってこられます。あなたがたは、聖靈が宿っている神の神殿であることを分かっていないのか。聖靈を通して三位一体の神様が、復活のキリストが、私の内側に永遠に住まわれることになりました。それをいのちと言います。しかも、永遠に離れることがないので、永遠のいのちと言います。それが救いです。それを完璧に成し遂げられたことを宣言することが、イエス様の復活なのです。その救いが完了したんだよ。だから、救われたというのは、教会に通うことではありません。病気が治った、それくらいのことではありません。今まで性格が悪かったものが穏やかになった。結果として嬉しいことでしょう。けれども、それが救いではありません。絶望の死の淵からいのちに移っていることなのです。完璧に解放されて、もう二度と罪に定められることがないようになって、しかも三位一体の神様が私の内側に戻っていらっしゃいます。神様とひとつになりました。これは人間の言葉では完璧に表現できません。救われたというのは、神様と一つになったことなのです。イエス様が肉体を持って、人間としてこの世に来られて、3年間過ごされました。

その3年間、人間の形をとってイエス様が過ごされました。そのようなパターンが、救われた私たちを通して、この地上でそのとおりに現れるものなんだということが救いなのです。信じないでしよう。なぜ信じないかというと、古いサタンのやぐらがそのまま残って、私たちの考え方を支配しコントロールしているからなのです。それが碎かれるように御座の祝福が、聖靈が、皆さんの中側に豊かに臨まれることを祈らないといけません。せっかく救われていのちあるものなのだから。いのちがあるというのは、助かった～ではなくて、神様とひとつになったことなのです。だから、エペソ1：23には、復活のキリストがかしらとなり、そのキリストのからだなる教会と言われることになりました。それが完璧に十字架の上で成し遂げられました。キリストが柱であり、私たちはそのからだである教会です。教会という言葉は恐ろしい言葉なのです。皆さんに行きますと、キリストが行くことになります。皆さんが本当に信じて疑わずにキリストの御名を呼ぶと、キリストが動くようになります。だから、不可能な状況の中で初代教会がローマの福音化を成し遂げられることになったわけです。だれが想像できたでしょうか。もう1週間以内で潰れるのではないかというのが普通の予想なのです。でも、そこには世の中の人たちが、権力者、迫害者などが知らない奥義、秘密があります。救われたものは、彼らにはないいのちがあります。神様と一つになりました。いくら不可能な状況でも、聖靈が臨まれると、神様の契約である世界福音化の契約が成し遂げられることになります。だれも止められません。それが不思議で不思議でしょうがない、世の中の人々は、歴史の学者たちも理解できません。だから勝手に綴っているのですが、それは全部間違いなのです。靈の世界の事実が分かっていない人は解釈できません。これが救いです。十字架で、この救いが完璧に成し遂げられたことを宣言することが、イエス様の復活なのです。だから、イエス様の復活が私の復活であれば、この救いが私の救いなので、これを喜ぶことが復活の喜びなのです。今日、ぜひこの復活を喜んでください。

2. 新しい人生の宣言

それからもう一つ、イエス様の復活は何を宣言しているのかというと、いよいよ救われた信者に、今までとは違う新しい人生が始まりますよという宣言とともに、イエス様の復活とともに、今までの時代が幕を閉じて、新しい時代が幕を開けるんだよということを宣言しています。だから、それ

を喜ぶわけです。

1) 復活以前の人生

①マタイ 6:31 ②私、私のもの、私の成功 ③問題解決

復活以前の弟子たちの人生はどんなものだったのでしょうか。マタイ 6:31 を見ますと、イエス様がそのように警告します。何を食べるか、何を飲むか、何を着るかなどを心配しないようにと。それは異邦人が心配するものだ。何を食べるかを心配するという小さな意味ではありません。この世の中で生きていくこと、それがテーマになっているのです。その人生は終わりです。どうやって生きていくのか。とにかく生きていくことがテーマなのです。それが復活以前の人生です。そこはテーマがいつも私です。私のもの、私の考え、私の成功、それがテーマなのです。それを軸にして動いていた人生はもう終わりなんだ。否定的な、消極的な言葉で申し上げますと、今までの人生、復活以前の人生は、問題解決にフォーカスを合わせてもがいていた、そういう人生なのです。それはイエス様の復活以前の人生なのです。

2) 復活以後の人生

①マタイ 6:33 ②使徒 1:3 ③世界福音化 ④教会(信者)を通して ⑤信者の現場から

それが終わり、あなたがたはどんな問題があろうが、どんな状況、環境であろうが、人生が変わったんだよということの宣言が復活なのです。それが、オリーブ山に弟子たちを集めて、イエス様が40日の間語った内容です。世の中では当たり前に何を食べるか、飲むかを心配しながら生きることをテーマにして生きている。これが当たり前かもしれません、あなたがたは違うよ。自分、自分のもの、自分の成功、それを軸にして人生を設計し、頑張っていただろう。それはあなたがたの人生ではないよ。問題解決にフォーカス合わせてもがいていただろう。それはあなたがたの人生ではもはやないよ。古いものは過ぎ去り、すべて新しくなった。イエス様の復活によって、以前のものは過ぎ去り、すべてが新しくなった。だから、あなたがたの人生は、何を食べるか飲むかではなくて、神の国とその義を求める人生に変えられているのだよ。それを喜ぶわけです。オリーブ山に弟子たちを集めておっしゃいました。神の国のこと 40 日間語っていらっしゃいました。どうしたことでしょうか。真面目に生きるか、何をどうするか。それがいくら必要な内容であっても、肉体的なことは私たちのテーマではない。この世界は暗闇に覆われているので、先進国であれ、途上国であれ、金持ちであれ、貧乏であれ、学歴のあるものであれ、無学のものであれ関係なく暗闇に覆われて制せられているので、この世に絶対必要なのは地上のものではないのだよ。神の国が臨まれることなのだよ。悪霊が追い出されて、暗闇が碎かれて、聖霊が臨まれまして、いのちの祝福が与えられること。これがこの世界に、あなたの家庭に、あなたの職場に必要なものなんだよ。それをテーマにして生きる新しい人生が、イエス様の復活以降、始まりますよと。この宣言です。弟子たちは最後の最後までこれに気づかないで、私たちの国がローマの植民地から解放されるのは今でしょうかと。

それも肉のテーマなのです。大切なテーマでしょうけれども、それはあなたがたは知らなくていいよ。あなたがたはこれから新しく作り変えられて、新しい人生が始まったんだよ。なぜそういう次元に囚われてアップアップしているのか。神の国とその義を求めなさい。勉強もそのために仕事もそのために結婚もそのために死ぬことも、そのために辞めるか、続けるかも倫理的な判断によるのではなくて、それも神の国のために。たとえ牧師に何かの過ちがあって弱さが見られたときでも、神の国のメッセージが間違いなければ何を選ぶのでしょうか。倫理的に、律法的に判断して裁く方なのか、あるいは福音宣教が、正しい聖書的伝道運動が守られてずっと続く、そっちを選ぶのか。判断の基準が全く変わってくるわけです。これが福音の人です。法律的には、倫理的には許せないことかもしれませんけれども。ノアが酔っ払って裸になっているのを見て噂をしていた者はのろわて、見ないで隠した者は祝福されました。簡単に考えてはいけません。世の中の人が理解できな

い、そういう次元を私たちは持って生きるわけです。あなたがたは、これから新しい人生が始まるのだよ。新しい時代が始まったんだよ。それに沿って、それに合うように生きていきなさい。神の国と義を求めなさい。それで世界中に神の国が広まるように。それが世界福音化です。イエス様の復活の後、今までとは違う世界、福音化の時代が始まりました。エルサレムから地の果てにまで、イエスの証人となるとおっしゃいました。今まででは約束だけだったのですが、イエス様の復活以降、これが本格的に成就していく、始まる時代がスタートしたのです。その宣言がイエス様の復活なのです。イエス様の復活となつたときに、救いは完璧に成し遂げられる。それを疑つてはいけません。そして、だから自分の人生、この時代は変わつた。新しく始まるんだと。それをいつもイエス様の復活を見るたびに聞かないといけません。特にイエス様の復活の後、この復活のイエス様を信じる教会、信徒を通して世界福音化を成し遂げられる時代が始まつたのです。それが神様のやり方です。マルコのタラッパンの120人、迫害の中で、何もできないような不可能な状況について、本当に下つ端をくぐるような人間ばかりが集まつていて、そこで何ができるのか。でも、それを通して彼らだけが復活のイエスを信じました。すごいユダヤ教のパリサイ人トたちは信じていません。だから、外見的に小さいか、力がないかどうか、身分がどうなのか、一切関係ありません。復活のイエス様を信じるその教会、その群れを通して世界福音を成し遂げられる新しい時代が始まつた。それが神様のやり方なのです。皆さんを通して、そういう時代が。それを信じないといけません。イエス様の復活はそれを語つているのです。それを大いに語つていらっしゃるのです。でも、復活の礼拝を捧げていながらも、全くそのメッセージが聞こえないのです。イエス様の復活のメッセージを本当に握ってください。

3) 絶対可能な力で

①絶対不可能な状況 ②Only 聖霊の力で ③絶対可能

そして、イエス様の復活以降、復活を信じる教会、信者を通して世界福音化が成し遂げられる新しい時代が始まつた。けれども、それが可能なのか。約束されました。Only 聖霊が臨まれると、それがなるんだよと。その絶対可能な力によってなさいます。私たちに力などは要りません。私たちのどうのこうでの言い訳にしてはいけません。日本の国だからダメだ、それをひっくり返さないといけないのです。それが復活なのです。絶対不可能な状況だったのではないでしょうか。しかし、Only ただ聖霊の力で、それだけで十分なのです。それで絶対可能に変わりました。それがイエス様の復活なのです。その証拠が聖書、また教会の歴史なのです。イエス様の復活を感謝するこの礼拝を通して、復活の意味を正しく理解して、何を喜ぶべきなのか、その喜びを自分のものにしたいと願います。

結論を申し上げます。なので、イエス様の復活を信じる信仰をもつて、その復活が自分の復活であることを喜びましょう。それで、揺れない救いの確信を持つようにしましょう。これが第1なのです。それから、イエス様の復活を信じるのであれば、以前の自分は死んで、復活のキリストとともに新しくなったことを告白しましょう。それで世界福音化の契約の中で、これが間違いないから、その中に私たちは召されているわけだから、自分のミッションを見つけるようにしましょう。この通りに祈つて、メッセージに耳を傾けますと、必ず神様がミッションを教えてくださいます。そして、なぜそれができないかというと、それを邪魔する以前の刻印、サタのやぐらが私たちの中にしっかりと健在しているのです。それを素直に認めて、この復活の契約を握つて、神のミッションを見つけることに集中すべきなのに、それさえあれば、聖霊が臨まれることによって、私の力と関係なく世界福音化に用いられるはずなのに、このミッションが見つからないように邪魔する内側の古い刻印、私、私のもの、私の成功、目に見えるもの中心、世の中のさまざまな理論中心、そういうものが刻み込まれているのです。それが碎かれることを祈りましょう。それを普段から祈らないといけないのでしょうが、いちばん碎かれるときがいつなのかというと、日曜日の礼拝です。礼拝

に本当に集中しましょう。必ず癒される、必ず碎かれますので、必ず変化を経験するようになりますので、信じてください。それをもって普段、日々の祈りの中でそれが全部生かされることになります。キリストが十字架で皆さんのために死なれ、皆さんのために復活なさった尊い復活の子です。なので自分勝手に自分のことを考えないで、キリストの復活の中から自分を改めるようになります。まずは疑わないで、私は救われた。死からいのちに移っている。古いものは過ぎ去った。その確信を持つように。ならば、これからどうやって生きていくのか。新しい時代が始まりました。今は世界福音化の時代なのです。自分自身に閉じ込められないで、また制限されることなく、約束を信じて、新しい時代、新しい人生なので、Only 聖霊が臨まれると、それ Only です。ほかのこと考えないで、それに集中することで、皆さんが世界福音化の契約の主人公であることを皆さんのが現場で体験しましょう。皆さんの現場から始まります。本當です。どのような現場でも構いません。神様は制限されません。聖霊の力は止められません。私たちにはそのような約束と特権があることを、イエス様の復活を通して改めて確認して、喜びましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。イエス様の復活が物語っているそのメッセージに耳を傾けて、それを固く握って、契約として握って、救いの揺れない確信とともに、世界福音化の新しい時代に沿って、自分がその主人公として新しく作り変えられた復活の子である確信をもって祈ることができるよう。それを邪魔する内側の古いやぐらが碎かれる聖霊の働きを、御座の力を体験することができるよう豊かに祝福を与えてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。